

<図・写真>



<材料・製作方法等>

(材料)

カゴ、ベルト、クランプ

(製作方法)

- ① カゴに穴を開ける。(教具等の固定用)
  - ② カゴを座位保持テーブル上に置き、ベルトまたはクランプで固定する。
- ※ 完成したカゴにスイッチを着けたり、ひっくり返して使ったりする事も可能。

<ねらい>

- ・ Nさんの手もみの軽減を図る。(外界に興味を向けやすくする)
- ・ 目と手の協応動作を促す。(目の前に提示することでものに興味を向ける)
- ・ 片手でのリーチングを促す

<指導方法・留意点等>

- ・ 手もみは、レット症候群の障害特性でもあるので、「やめさせること」をねらいにせず、軽減し、外界に興味を向けられることをねらいとして使用する。

<指導経過・成果・課題・展望等>

- ① 一学期当初から手もみに集中すると外部からの刺激が入りにくいことは推測できており、「座位保持テーブル上に手もみを軽減できる壁のようなものを作れたらいいのでは」と仮説を立て、試行錯誤を始める。
- ② 一学期末に近くにあったカゴを机の上に置いたところ、カゴで手遊びをする様子が見られ、カゴを使った手もみ軽減グッズを作成。
- ③ 発表会に向け、作成したスイッチを設置するために穴を開ける。
- ④ 音の出る絵本を固定できるように穴を開ける。(写真④)
- ⑤ キャリーケース用のバンドを使って固定していたが、担任以外が設置しづらいことが分かり、クランプ版を製作。(スイッチの取り付けも可能) (写真⑤)



(成果・展望)

- ・ レット症候群の「手もみ」と「外界への興味」については、明確な因果関係は実証されていないようであるが、手もみを抑制することで目が合いやすくなったり、リーチングがスムーズになったりしているように感じられた。
- ・ カゴの中で、モノでの遊びを促すことで、左右の手の分離を促し、片手で遊ぶことが増えた。
- ・ ほとんど加工がいらず、安価に製作できた。(だれでも作ることができる教具ができた)
- ・ 使い方を工夫すると、「取り出す学習」や「プットインの初期課題」としての活用も期待できる。